

# ‘いつでもどこでも始められる’ 帰国者のための「遠隔学習課程（通信教育）」

馬場 尚子

- I. 「遠隔学習課程」が開設された背景
- II. 「遠隔学習課程」の目指すもの
- III. 「遠隔学習課程」の概要
- IV. 「スクーリング」について
- V. 受講者の概況
- VI. 受講者の声
- VII. 「遠隔学習課程」の役割と意義
- VIII. 今後の課題

## I. 「遠隔学習課程」が開設された背景

中国残留邦人等の帰国促進事業が長期化する中で、帰国者の高齢化も進み、日本語習得についても更なる困難が言われるようになった。2000年度に厚生労働省において開催された「中国帰国者の支援に関する検討会」においても、従来の援護施策の見直しと、帰国後3年に限られていた日本語学習の施策を転換し、継続的な支援体制を確保する必要があるとの見解が示された。また、帰国者本人世代にとどまらず、呼び寄せ二三世についても就労に結びつく日本語学習支援の必要性が指摘された。この後、国により新たな帰国者支援策として2001年11月に開設されたのが「遠隔学習課程（通信教育）」事業である。

「遠隔学習課程」は、帰国者に中長期的に日本語学習の機会を提供するシステムとして立ち上げられた。「遠隔学習課程」は国費帰国者のみならず、全体の状況を見ながら呼び寄せ二三世の受講も認めている。本事

業は、2001年11月に中国帰国者支援・交流センター（首都圏センター）が受託し運営してきたが、2008年4月より中国帰国者定着促進センター（以下、センター）に移管された。「遠隔学習課程」は日本のどこに住んでいても、またいつからでも始められる日本語学習課程であり、開設9年目の現在も、受講者数は増加し続けている。本稿では、「遠隔学習課程」システムと受講者の声を紹介しながら、「遠隔学習課程」の果たしている役割と意義について述べたいと思う。

## II. 「遠隔学習課程」の目指すもの

- ① 定住地による日本語学習環境の格差をなくし、日本のどこにいても日本語学習ができるようにする

「遠隔学習課程」は、全国に散在する帰国者に対し、定着地がどこであろうと公平に得られる日本語学習機会を提供していく。

- ② いろいろな学習環境と学習条件を持つ帰国者が自分のペースで日本語学習が進められる方法を提供する

仕事等で多忙なために教室に通えない人や、学習レベルや学習ニーズの違う人と一緒に学習しなければならないことに苦痛を感じて通学を止めた人等が、自分にあった内容を選び、自分のペースで学習できるプログラムを提供する。

- ③ 日本語学習を始めたときに、いつでも始められる機会を提供する

来日直後の生活基盤を作らねばならない時期や、子育てに追われる時期など、日本語学習をしたくてもできない時期がある。その後、生活の安定や家庭環境の変化などで条件が整い、日本語学習ニーズが生まれたときに、いつでもそれに対応できる学習システムを提供する。

- ④ 多様な日本語ニーズに答えられるようなコースと教材のメニューを整え、提供していく

帰国者といってもその年代、社会的立場も様々である。それぞれに必要な日本語は一律ではない。この多岐にわたるニーズに応えられるように、日本語学習プログラムの充実、自学自習用教材の開発を行っ

ていく。

- ⑤ 帰国者の身近にいる日本語学習の支援者に、「遠隔学習課程」の学習プログラムや教材などを提供し、センターと相互に連携しながら帰国者の日本語学習を応援していく支援者間ネットワーク作りをする

センターは、「遠隔学習課程」受講者の学習支援者をはじめ、全国各地の教室等で日本語学習を行う帰国者を支援する者に対しても、「遠隔学習課程」の教材や学習プログラムを提供し、指導方法に関するアドバイス等を行う。センターは、「遠隔学習課程」を通して地域の支援者と協力体制を作りながら帰国者の日本語学習を充実させることを目指す。

### Ⅲ. 「遠隔学習課程」の概要

#### 1. 対象

中国、サハリンからの帰国者とその家族を支援対象とする。国費帰国者だけでなく私費帰国者も応募状況を見ながら受講資格を認める。主に成人者を対象とするが、コースによっては、一部、中学生、高校生等も利用できる。

#### 2. 学習方法とプログラム

郵便、ファックス、電話等を利用した通信教育で、受講者は、受講コースのプログラムに従い、学習期間内に課題を4、5回センターに提出し、担当講師の添削、フィードバックを受けながら学習を進める。

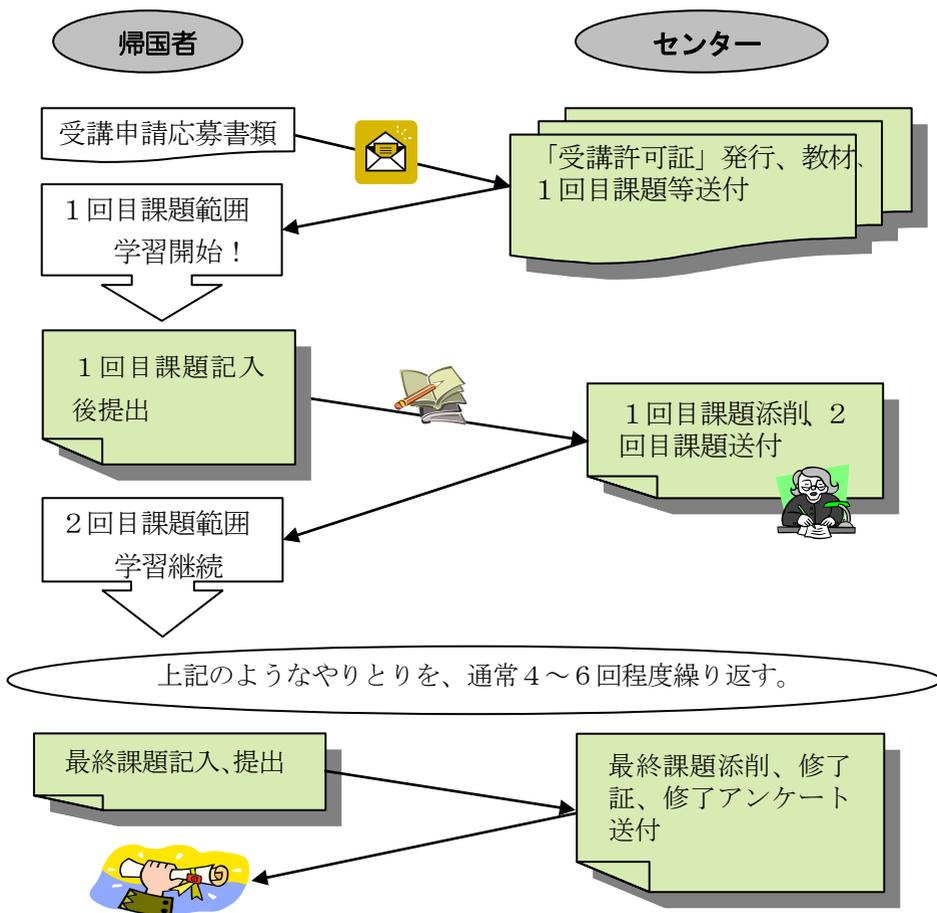
#### 3. 学習期間

1 コースの標準学習期間は6ヶ月（一部、3ヶ月のコースあり）。ただし、受講者の学習ペースや事情を配慮し、標準学習期間の2倍まで学習を延長できる。

#### 4. 募集と受講システム

年1～2回、全国の帰国者世帯に募集要項を送付し、大規模な募集を行う。申し込みは常時受け付け、毎月24日を〆切りとし、翌月から受講開始できる。応募から修了までの流れは以下の通り。

##### [「遠隔学習課程」受講の流れ]



## 5. 学習内容（コースの概要）

「遠隔学習課程」のコースは、現在、中国帰国者向けに 22 コース、サハリン帰国者向けに 10 コースの計 32 コースが開講されている。（※開講コースの概要については「資料 1」参照）これらのコースは、以下のようなジャンルにわかれており、それぞれのコースで使用されている教材は、全て帰国者向けにセンターで開発したものである。

### a. 日本語の基礎

初級レベルの基礎文法・文型・語彙を体系的に学べるコース。来日間もない人から基礎を再整理したい人向けのコース

### b. 生活場面日本語

来日間もない人や生活場面で不自由を感じる人が日常生活行動をスムーズに行えるようになるための生活場面別コース

### c. 技能別日本語

読解、漢字、会話、作文など日本語技能別のコース

### d. キャリアアップ日本語

二三世の就労支援につながる、資格取得やキャリアアップのための目的別コース

### e. 自学自習の技術

自学自習を行う場合に必要な知識や技術を身につけるためのコース

## IV. 「スクーリング」について

### 1. 「スクーリング」とは

「スクーリング」とは、「遠隔学習課程」の受講者に対して、自学自習中心の通信教育だけでは不足しがちな点を補い、自己学習がスムーズに進むように受講者の居住地で行なう対面式の指導のことである。スクーリングは、基本的に希望者にのみ行う。

このスクーリングの実施主体は各都道府県（支援・交流センターがあ

る場合は各支援・交流センター) であるが、センターは、全国のスクーリングの計画と実施状況を常に把握し、個々のスクーリングが円滑に進むように実施主体への支援を行なっている。そして、スクーリング実施主体、スクーリング講師と連携を取りながら受講者の学習を支援している。

スクーリングの主な目的は以下のような点にある。

- ① 一人で学習を進めるために必要な自学自習技術の指導を行う
- ② 自学自習中に出てきた疑問点等について直接講師に質問する
- ③ 講師や他の受講者と会話練習を行う
- ④ 学習成果を講師との実際のコミュニケーションを通して発展的に運用する
- ⑤ 定期的に通学することによって規則的な学習のペース作りをする
- ⑥ 講師や他の受講者と一緒に学習することによって学習継続への意欲や帰属感等を得る

センターは、各自治体、スクーリング講師からのスクーリングに関する相談に常時応じるだけでなく、スクーリングに関する情報紙「スクすく通信」を発行し、年1回のスクーリング講師対象の「研修会」を開催している。この8年間の研修会の実施内容は以下の通りである。

### 【各年度のスクーリング研修会概要】

年度	研修会テーマ	参加人数
2002 H14	[全体会]遠隔学習支援と「スクーリング」の目的と方法／「遠隔学習課程」と「補習型」のスクーリングについて	70名
2003 H15	[全体会]遠隔学習支援と「スクーリング」の目的と方法／スクーリングの実施状況についての情報交換／受講者の多いコースのスクーリング実施要領	48名
2004	[全体会]遠隔学習支援とスクーリングの現況／講師と	44名

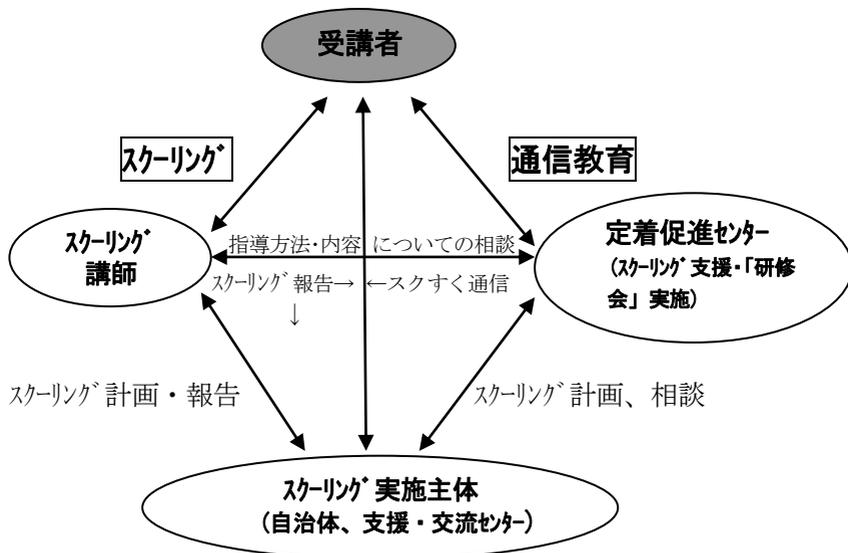
H16	センター間の連絡網についての総括と今後の展望 [分科会]①近隣会話コース ②読解の基礎コース ③漢字関連コース	
2005 H17	[全体会]遠隔学習課程とスクーリングの状況と今後 [分科会]①入門日本語コース②消費生活コース③二世のスクーリング参加促進策	42名
2006 H18	[全体会]医療コースのスクーリングについて [分科会]①医療コースのスクーリングのポイント②コミュニケーションを重視したスクーリング③スクーリング講師の役割	43名
2007 H19	[全体会]スクーリングと自学自習指導について [グループ協議]自学自習ができない事例から考える自学自習指導の内容／遠隔受講者が一人で学習を進められるためにスクーリングで何をするか	48名
2008 H20	[全体会]複式指導のスクーリング [グループ協議]複式スクーリング事例を見る／複式スクーリングの指導計画を立てる	41名
2009 H21	[全体会]高齢学習者へのスクーリング指導 [グループ協議]高齢受講者のスクーリングでよく見られる事象を通してその対処法について考える／「遠隔学習課程、スクーリングシステムの概要	46名

## 2. 「遠隔学習課程」支援者ネットワーク

「遠隔学習課程」は、センター、スクーリング実施主体、スクーリング講師という複数の支援者が連携しながら受講者の学習支援を行う。スクーリング講師とセンター(各コースの添削担当者)は受講者の自学自習を助けるという同じ目的を持っているが、支援できる範囲も方法も違う部分を持っているので、それぞれの立場を補い合い連携することで、受講者の学習を充実させていくことができる。以下、受講者を中心とした

支援者間のネットワーク図である。

### [ 遠隔学習支援ネットワーク ]



## V. 受講者の概況

### ①受講者数の推移と開講コース

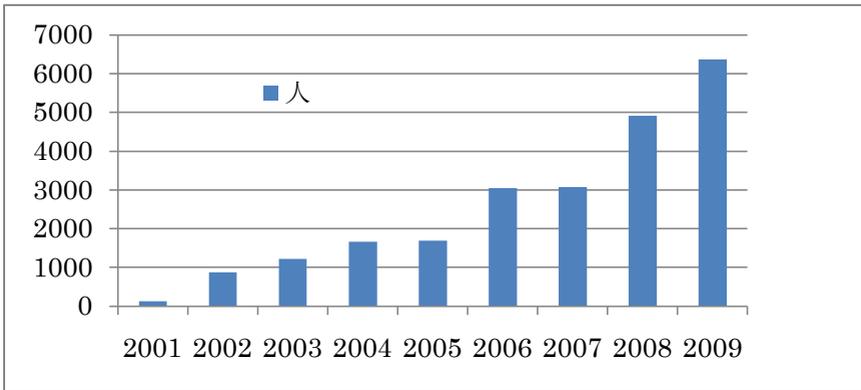
「遠隔学習課程」は、開講初年度の 2001 年度（2001 年度は 11 月開講だったため 5 ヶ月間のみ）は、5 コースを開講し延べ 124 人の受講者でスタートした。現在、開講コースは 32 コース（中国 22/サリン 10）で、2009 年度の受講者数は延べ 6, 364 人となり、開講当初の 2002 年度と比べて 7 倍以上の伸びとなった。以下、受講者数の推移である。

【表 1：年度別受講者数】

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
人	124	870	1,214	1,667	1,696	3,048	3,067	4,918	6,364

「受講者」：該当年度内に受講を開始した者。1人2コース受講する者もいるので受講者数は延べ人数

〈年度別受講者数の推移〉



【表 1】を見てわかるように、毎年のように大きな受講者数の伸びがある。この理由には、帰国者の学習ニーズを捉えた新コースの開設を続けてきたことがある。以下【表 2】で、コース増設の過程をしてみる。特に、2006 年度に大きく受講者数が伸びたのは 2005 年度末に「医療コース」が開講されたためである。このコースは、帰国者の切実なニーズに答えたもので、開講以来現在も応募者が多い人気コースとなっている。

【表 2：年度別新規開講コース】

年度(新規コース数)	中国帰国者向けコース	サハリン帰国者向けコース
2001 (5 コース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆職業訓練校入校「中卒程度国語」</li> <li>◆職業訓練校入校「高卒程度国語」</li> <li>◆就職対応</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆運転免許取得</li> <li>◆近隣交際会話</li> </ul>	
2002 (4 コース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆職業訓練校入校「中卒程度数学」</li> <li>◆職業訓練校入校「高卒程度数学」</li> <li>◆漢字学習</li> <li>◆読解の基礎</li> </ul>	
2003 (7 コース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆漢字ゆっくり A</li> <li>◆漢字ゆっくり B</li> <li>◆ホームヘルパー受験準備</li> <li>◆入門日本語文法文型</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆就職対応</li> <li>◆近隣交際</li> <li>◆漢字学習 (1)</li> </ul>
2004 (2 コース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生活場面日本語「消費生活」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆漢字学習 (2)</li> </ul>
2005 (2 コース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生活場面日本語「医療」</li> <li>◆続・入門日本語文法文型 A</li> </ul>	
2006 (4 コース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生活場面日本語「交通」</li> <li>◆続・入門日本語文法文型 B</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆漢字学習 (3)</li> <li>◆生活場面日本語「消費生活」</li> </ul>
2007 (4 コース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆中国語ピンイン学習</li> <li>◆自己表現作文「日本語学習」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生活場面日本語「交通」</li> <li>◆漢字学習 (4)</li> </ul>
2008 (3 コース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自己表現作文(1)「日本語学習」A</li> <li>◆自己表現作文(1)「日本語学習」B</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生活場面日本語「医療」</li> </ul>
2009 (1 コース)		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆漢字学習 (5)</li> </ul>
2010 (2 コース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自己表現作文(2)「日本の生活」A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆漢字学習 (6)</li> </ul>

② 受講者のプロフィール（2010/6/7 現在）

現在まで「遠隔学習課程」を受講したことのある帰国者の実数は 4371 名である。以下、その属性について見てみる。

・「一世世代」と「二三世代」

一世世代	2028 人 (46%)
二三世代	2343 人 (54%)

・年齢分布

年代（歳）	人数（%）
13～19	27 (0.6%)
20～29	283 (6%)
30～39	727 (17%)
40～49	813 (19%)
50～59	440 (10%)
60～69	1344 (31%)
70～79	652 (15%)
80～	53 (1%)
不明	32 (0.7%)

一世と二三世代の比は、二三世代が一世世代の登録者数を越えている。帰国区分で見ると開設初期は公費帰国者が圧倒的に多かったが、現在は、公費帰国者が若干多い程度で私費とほぼ同数である。私費帰国のほとんどは呼び寄せであることから、二三世代が多くなっていることも当然の結果といえる。呼び寄せ二三世は、定着促進センター等は経ず、ほとんどの自立研修センターも閉所された現在、帰国者対象の公的学習機関で集中的に日本語を学習する機会ほとんどない。また、忙しく、経済的にも決して余裕のある状況ではないことを考えると、自学自習主体で経費のかからない「遠隔学習課程」は、呼び寄せ二三世の学習条件と合致する部分が多いのではないか。

年代を見てみると、やはり、残留孤児世代である 60 代が群を抜いて多く、ついで 40 代、30 代と続く。孤児世代が生涯学習として長期的に日本語学習を継続している様子がうかがえる。また、働き盛りの 30 代、40

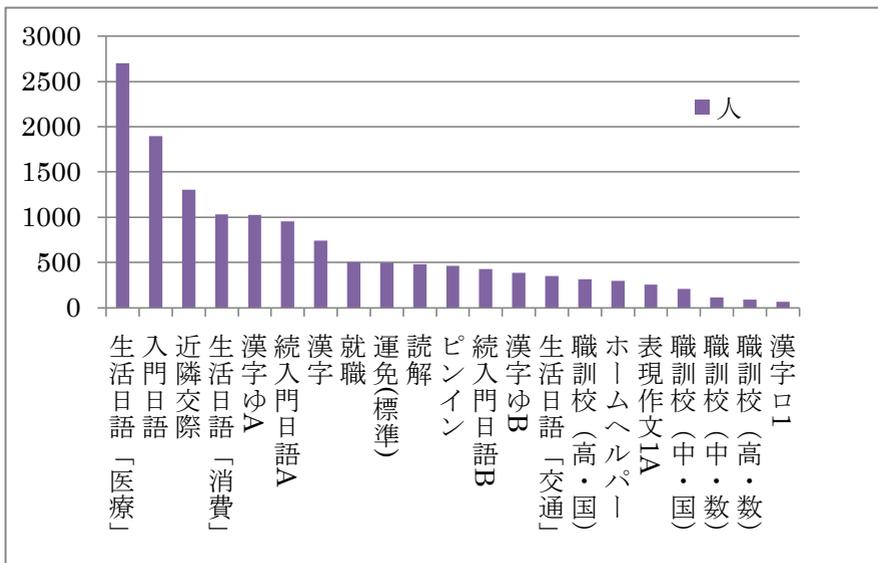
代世代の日本語学習ニーズが高いことがわかる。50代までの受講者が、ほぼ二三世であることを考えると、二三世帰国者の高齢化が見えてくる。この他に、受講者の来日年数を見てみると、38年前に帰国した者から帰国1ヶ月にも満たない者までと幅広い。

また、受講者の居住地域は以下のように47都道府県全てに渡っており、日本の津々浦々に散在する帰国者の実態を再認識させられる。居住地域の分布としては、やはり圧倒的に東京が多く（26.4%）、ついで、大阪（7.5%）、神奈川（6.9%）、愛知（5.3%）、埼玉（5.1%）、長野（5%）、千葉（4.7%）と続く。受講者も定着者を多く抱える都市部に集中している傾向がある。

### ・居住地分布

都道府県名	人数	比率	17石川県	21	0.5%	34広島県	107	2.4%
01北海道	84	1.9%	18福井県	6	0.1%	35山口県	11	0.3%
02青森県	32	0.7%	19山梨県	61	1.4%	36徳島県	4	0.1%
03岩手県	14	0.3%	20長野県	218	5.0%	37香川県	27	0.6%
04宮城県	46	1.1%	21岐阜県	36	0.8%	38愛媛県	19	0.4%
05秋田県	15	0.3%	22静岡県	83	1.9%	39高知県	30	0.7%
06山形県	64	1.5%	23愛知県	230	5.3%	40福岡県	151	3.5%
07福島県	55	1.3%	24三重県	11	0.3%	41佐賀県	24	0.5%
08茨城県	30	0.7%	25滋賀県	21	0.5%	42長崎県	47	1.1%
09栃木県	56	1.3%	26京都府	141	3.2%	43熊本県	34	0.8%
10群馬県	63	1.4%	27大阪府	326	7.5%	44大分県	12	0.3%
11埼玉県	221	5.1%	28兵庫県	132	3.0%	45宮崎県	10	0.2%
12千葉県	206	4.7%	29奈良県	22	0.5%	46鹿児島	29	0.7%
13東京都	1156	26.4%	30和歌山	13	0.3%	47沖縄県	15	0.3%
14神奈川	301	6.9%	31鳥取県	1	0.0%	48不明等	54	1.2%
15新潟県	70	1.6%	32島根県	3	0.1%	総計	4371	
16富山県	9	0.2%	33岡山県	50	1.1%			

・受講コースの累計順位



今まで受講されたコースの順位を見てみる。もちろん、それぞれのコースは開講された時期が異なるので一概に順位はつけられないが、「医療コース」「入門日本語コース」「近隣交際コース」は、現在も毎月の受講開始者が多いコースである。「医療コース」は、特に応募者が殺到した。医療場面でいかに帰国者が困難を極めているかの表れだろう。2010年6月現在の在籍者で見ると「入門日本語コース」が一番多い。この入門日本語シリーズ(「入門」「続入門A」「続入門B」)は「遠隔学習課程」のメインコースと言える。来日間もない人、滞日年数は長いが日本語学習機会のなかった人、日本語学習経験はあるが学んだことを忘れてしまった人などがこのシリーズを受講している。

「近隣交際コース」は「遠隔学習課程」開設当初からずっと根強い人気を保っているコースである。帰国者の多くは、長年日本に住んでいたとしても、日本人との付き合いに不全感を持つ者が多い。なんとか周囲の日本人とコミュニケーションできるようになりたい、今よりはもう少

し親密な人間関係を持てるようになりたいという願いの表れではないかと思う。

## VI. 受講者の声

「遠隔学習課程」を修了した帰国者には、「修了アンケート」([資料2]参照)を実施している。このアンケートは、添削やスクーリングに対する意見、感想とともに、「遠隔学習課程」をとった動機やコースを受講して得られた成果等を聞いている。2008年7月から2010年6月までの間に返信のあった1287件の修了アンケートより受講者の声を紹介し、「遠隔学習課程」が帰国者にとってどのような存在となっているかを見てみたいと思う。

### ① 「遠隔学習課程」を受講した動機（複数回答）

1位	中国語付きの教材だから	773(60%)
2位	他の教室では勉強できないコースがあったから	609(47%)
3位	近くに教室がないから	407(32%)
4位	教材が無料だから	369(29%)
5位	一人で学習するのが好きだから	307(24%)
6位	忙しくて教室に通う時間がないから	274(21%)
7位	体調があまりよくないので通学できない	162(13%)
8位	近くに教室はあるが、自分には合っていないから	160(12%)
9位	その他	44(3%)

受講動機として一番多かったのは、「中国語付きの教材だったから」であった。定着地で日本語を学習したいと思っても、市販されている中国語訳付きの教材は種類も少なく、ニーズにあった教材を手に入れるのはなかなか難しい。自学自習用に作られた「遠隔学習課程」の教材は、全

て日中対訳式であることから、帰国者のニーズに応じていると言える。

2位は「他の教室では勉強できないコースがあったから」であった。帰国者の年齢層は幅広く、学習ニーズもそれぞれのライフステージにより多岐にわたる。それらのニーズに応えるためには、多様なコースメニューを揃えておく必要がある。本課程開設以来、積極的にコース（教材）開発を行ってきたが、このコースの豊富さといつでも好きなものを選べるという利点は、教室学習では得られない「遠隔学習課程」の特徴と言える。

3位の「教室が近くになかったから」は全国津々浦々に居住する帰国者の学習環境に地域格差があることの実態を表すものだろう。支援・交流センターやボランティアの教室も都市部に集中する傾向にあり、周囲に学習の場がない帰国者も多く存在する。「遠隔学習課程」が、このような帰国者の受け皿になっていることがわかる。また、4位の「教材費が無料だから」という回答からは、経済的に余裕が持てない帰国者家庭の現状が想像される。5位の「自分一人で学習するのが好き」からも帰国者が様々な学習スタイルを持っていることがわかる。また、6位の「忙しくて教室に通う時間がない」は、例え学習の場が近くにあっても、時間帯などが合わなければ学習機会は得られないことを示す回答だろう。年代的に仕事や子育てで忙しい二三世代には、時間的な自由のきく本課程は便利なものだろう。

この他、自由記述の中には、一世を介護する二三世から「母の看病で離れられない」等も複数件あり、一世の高齢化に伴い外出もままならなくなっている二三世がいることがわかる。また、「耳が遠いから」という回答も多かった。身体的に不自由になり教室での学習に参加しにくくなっている高齢帰国者の様子がうかがえる。一世世代の高齢化はますます進み、身体的な不調を来す者も増えていることから、家で学習できる本課程へのニーズはこれからも高まるのではないかと思う。他に、「時間を自由に使えるから」という意見が数多かった。また、「プレッシャーがないから」「(教室は) 学習する人が多くて質問する暇がない」等があった。「特別の親近感と安全感がある」というように、公費帰国者にとって「古

巢’であるセンターが実施主体であることへの信頼感を表す回答もあった。

② 本コースを受講して得られたこと（複数回答）

1位	語彙（漢字）量が増えた	855(66%)
2位	学習することを通して、生活の楽しみ、ハリを得た	808(63%)
3位	読み書き力がついた	633(49%)
4位	日本事情について知らなかったことがわかった	628(49%)
5位	今までわからなかった文法的なことがわかった	609(47%)
6位	会話力が伸びた	561(44%)
7位	自学自習する習慣と学習方法が身についた	438(34%)
8位	その他	18(1%)

全てのコースに共通する「語彙（漢字）量が増えた」が1位であるのは当然の結果だと言えるだろう。「読み書き力」が3位と比較的上位にあるのに比べ「会話力が伸びた」が6位と低めなのは、基本的に自学自習で、郵便による紙ベースの課題のやり取りを中心とした通信教育の限界と言わざるを得ない。また、注目すべきは、2位の「学習することを通して、生活の楽しみ、ハリを得た」が63%もあったことだ。これは、50代以上の受講者が60%程度いる点から、納得できる結果でもある。高齢者の学習動機は、純粋な日本語力養成というよりは、日々の暮らしの充実感や心身の健康維持のためという者も多い。これは、帰国者にとっての日本語学習が生涯学習的意義を持っていることを示すものかもしれない。

4位の「日本事情について知らなかったことがわかった」は日本事情を多く盛り込んだ「生活場面コース」や「近隣交際コース」の受講者数が多いことの表れだろう。また、5位の「今までわからなかった文法的なことがわかった」についても「入門日本語文法文型シリーズ」が人気

コースであることから納得できる。

「自学自習する習慣と学習方法が身についた」は、34%の受講者が成果だったと答えている。回答者は全員、学習を最後までやり通した者であることからうなずける結果でもある。「通信教育」という学習方法は初めてである者が多いことから、遠隔学習課程の学習プログラムである定期的な課題の提出と担当講師の添削、アドバイスや励ましのコメント等、センターとのやり取りが自学自習を支え、学習継続の一助となったものと想像する。

他、自由記述には、以下のようなものがあった。「勉強の時、楽しい」「日本での生活に自信がついた」「学習に参加して友達に出会った」「毎日やることがあって（日本語の勉強）、日本ももっと好きになった」「勇気を出して日本人としゃべれるようになった」「生活が豊かになった」「家でやることがないので勉強できるのは嬉しい」「精神的にも明るくなり、生活がもっと自由になった」「生き甲斐ができた」「各コースの学習を通じて考え方や見方が変わってきた」等々。

### ③ 履修して得られた具体的成果

以下、受講者がコースを修了して得られたという具体的な成果や進歩を受講コース別に紹介する。

#### **[漢字学習／読解コース]**

- ・ 職業訓練校の入試に合格した
- ・ 仕事に役立った
- ・ 介護ヘルパー 2 級の資格を取った
- ・ 新聞と雑誌が読めるようになった
- ・ 日本の漢字と中国の漢字が区別できるようになった
- ・ 日本語能力試験 2 級に合格した

#### **[就職対応／運転免許コース]**

- ・ 気に入った仕事が見つかった
- ・ 電話で何でも話せるようになった

- ・求人広告を見て飲食店に電話をして店長さんと就職の話をして、新しい仕事が見つかった
- ・仕事が見つかった
- ・就職面接のとき勇気が出た
- ・面接のとき余り緊張しなくなり、新しい仕事が見つかった
- ・運転免許が取れた
- ・バイクの免許を取った

### [近隣交際コース]

- ・周りの人と交流する自信が湧いてきた
- ・日本の生活での常識や近隣との付き合い方が理解できた
- ・毎日隣の人と挨拶する自信がついた

### [入門日本語／続入門日本語コース]

- ・訪問看護師との交流が以前よりスムーズになった
- ・親戚に葉書を書けるようになった
- ・ホームヘルパーの資格を取れた
- ・仕事に大変役立った
- ・読み書き能力がついた
- ・会話能力が上がった

### [生活場面関連コース]

- ・買い物が便利になった
- ・視野が広がり生活が楽しくなった
- ・クリーニング、現像、郵便局に行って用事を済ませることができるようになった
- ・一人で買い物できるし、日本人とも会話できるようになり、生活が楽しくなった
- ・一人で病院に行けるようになった／安心して病院へ行けるようになった
- ・病院で診察を受けるとき症状を伝えることができた
- ・今入院中で、医療用語が使える
- ・薬の説明書きが読めるようになった

- ・日本語で道を尋ねられるようになった
- ・いろんな所に遊びに行けるようになった

#### [ピンイン／自己表現作文コース]

- ・ピンインでワープロを打てるようになった
- ・ピンインを学習して中国の友達と（メールで）やり取りできるようになった
- ・ピンインを学んで中国語に興味ある日本人と交流できるようになった
- ・日本語で作文を書く基礎を学んだ
- ・「自分史」を書くのに役立った

#### ④ その他の感想意見

「修了アンケート」の最後に聞いた「遠隔学習課程」やセンターに対する意見、感想の中からいくつか以下に紹介する。

- ・こんな学習法はいいと思う。来年も再来年も参加したい。
- ・昔（中国で）は、学校に行くことができなかったが、こうやって勉強の機会を与えてもらってすごく嬉しい。
- ・今年の4月に失業した。時間は充分あるので勉強したい。
- ・遠隔はすごくいいと思う。教材を見て宿題をやって自分のペースのできるのいい。記憶力は劣っているが収穫は確実にある。
- ・遠隔を通じて自分の読み書き、会話能力について認識でき、毎回の課題を提出するたび、自分に勉強するようエンジンをかける。遠隔課程は帰国者にとってとても大事。
- ・遠隔の勉強は面白かった。他にも勉強したい人は大勢いるが、様々な原因で（例えば仕事で）実現できない。こんな状況の人には遠隔はとても助かる。遠隔を通じて私はいろいろなことを理解できるようになった。
- ・遠隔は私のように家庭と仕事を持っている人に合うと思う。
- ・退職して時間があって勉強した。調子が良ければいっぱい勉強して、

- 体調が良くないと止める。学習の目的は自立した生活をしたから。まじめに勉強すれば年をとったとしても勉強しないより収穫がある。
- ・遠隔の勉強で原動力と興味をもらった。私は中国で小学校4年の学歴なので日本語の勉強はとても難しかった。でも、私は毎回課題を深夜2時3時までやって、ちょっと長かったけど完成させることができた。CDを聞くときも10回聞かなければ理解できない。わからない問題は先生に聞いたり参考資料を見たり、孫達に聞いたりした。
  - ・私は自費で日本に来てセンターの学習に参加したことがない。独学だと多くの問題がある。実は学習をしているというイメージを持つだけで嬉しい。長年独学で各方面の情報が不足している。特に医療方面だ。今回の学習を通じて病院に行く勇気が出た。まだ、自分の理想とはほど遠いが続けて学習したい。
  - ・遠隔学習を受講してからは計画的に日本語を学習することができた。以前は知らなかった知識が増え、漢字を練習でき、毎日CDを聞くことで会話が充分聞き取れるようになった。遠隔学習が永遠に続くことを望む。全てのコースを学習したいと思っている。
  - ・これからも私たちのように学校に行けない人のために遠隔を続けて欲しい。
  - ・コースの種類をもっと増やして欲しい。(複数)

## VII. 「遠隔学習課程」の意義と役割

「受講者の声」から見えてくるものとして、まず、「遠隔学習課程」が一世世代の高齢帰国者にとっては老後のライフワーク、生涯学習となっているということである。また、一世世代の中には中国で学習機会を得ることができなかつた者も多くおり、「遠隔学習課程」で学ぶことは、初めて公的な学習システムで学習する経験である。学ぶこと自体が喜びであり、意味あることであることがわかる。

そして、二三世代の壮年層は、生活に追われ時間もなく厳しい学習環境におかれていることが再認識できた。そのような学習者には、ペー

スや時間帯等、自分を教室に合わせるいかなければならないやり方は、負担が大きくなる。自分のコントロール下で臨機応変な学習のできる「遠隔学習課程」は、忙しい世代の学習スタイルに合っているとと言える。また、昨今の社会状況の中で仕事を失う二三世も増えている。失業した二三世は日本語学習のニーズが高まることが多く、いつでもどこでも始められる「遠隔学習課程」は、緊急な日本語学習ニーズを持つ帰国者の受け皿となっている。

また、二三世受講者のうちの約80%は私費帰国者であるが、私費帰国の場合、公的な制度としての日本語学習機関で学習することはほとんどない。したがって、帰国してから日本語学習をしたことがなかったという者も多い。そのような帰国者にも帰国の経緯や居住地に関係なく受講できる「遠隔学習課程」は、ようやく手に入れた学習機会と言える。

以上のことから、全国に散在する、多用なニーズ、多様な学習スタイルを持つ帰国者には、学習支援も多様な形態が必要であることがわかる。「遠隔学習課程」は、このようなニーズに応える新たな学習方法を提供できたと言えると思う。

そして、生活者として日本に定着していく帰国者には、それぞれの年代ごとに変化していくライフステージに伴走できる、息の長い日本語学習支援が必要である。それには、支援者個人や地域の事情で流動的な部分を持つ地域支援サービスだけでなく、一定したサービスを継続的に保障していける公的支援システムが必要だろう。そのようなシステムの一つとして、「遠隔学習課程」が今後も機能して行ければと思う。

## VIII. 今後の課題

### ① 学習継続を促すプログラムの充実

「遠隔学習課程」は自学自習中心の学習なので、自由に学習できるという利点の一方、かなり自己コントロールが求められ、継続の難しい面もある。修了者からは、定期的な課題の提出や担当講師の添削や励まし学習の原動力となるという感想も多く寄せられたが、今後も受講者が

少しでも学習への意欲を持ち続けられるよう、プログラムの充実を図っていきたい。

## ② 会話力を養成するプログラムの検討

「遠隔学習課程」の教材にはほとんどCDがついているとはいえ、自学自習だけで会話力をつけるのは難しい。居住地でのスクーリングを受けられる場合もあるが、月1回程度であり、十分な会話練習の機会とは言えないだろう。また、読み書き力は、センター講師とやり取りする「課題」を通じて評価され、達成感を感じることができるところもあるが、会話力については、コースの履修を通じて幾ばくかの伸びがあったとしても、その成果を評価され、伸びを実感する機会は得にくい。この限界を少しでも超えていくために、スクーリングの生かし方、受講者の会話力を評価するシステム、インターネットを使った対面型の学習システムの開発等も検討していく必要があるだろう。

## ③ コースメニューの充実

受講者の声にも多数あったように、更なるコースメニューの充実が望まれている。現在は、入門から初級レベルのコースが中心であるが、今後は、特に二三世が日本社会で自己実現できるように、キャリアアップや生活向上を目指すコースの開発を行っていく必要があるだろう。

## 【資料1】

### 【遠隔学習課程開講コース一覧】

【日本語力の目安】

★	ひらがなの読み書きはできる。挨拶程度の会話なら可能
★★	初級の中盤程度の日本語は学習済み。簡単な日常会話なら何とか可能
★★★	初級レベル教科書の学習は修了。日常会話はほぼ問題ない

※印は中国／サハリン帰国者向けの2種類あり。無印は中国のみ

コースジャンル	コース	難易度	コースの主な内容
a. 日本語の基礎	入門日本語 文法文型	★	入門レベルの語彙と文法文型を文例を使った解説、身近な事柄についての会話例、運用練習（聞き取り練習を含む）などを通して日本語の基礎を学ぶ。（名詞文／動詞文／形容詞文／助詞／疑問詞／辞書形／動詞の活用／経験／依頼／～ている／許可・禁止／比較／願望／忠告・意見／授受／可能形／受身形）
	続・入門日本語A	★ ★	名詞修飾／引用・命令／使役形／条件／意向形／変化・決定／様態・伝聞／推測・確認／敬語
	続・入門日本語B	★ ★ ★	時間と順序に関わる表現／条件の表現／自動詞・他動詞／いろいろな依頼表現／体言化の「の」／接続詞・指示詞／文の接続／助詞のまとめ
	漢字学習1 ／2（カリのみ）	★	漢字を初めて学ぶロシア語圏の学習者が自習しやすいように、教材には漢字1字1字に読み方と字の意味、語例、筆順などのロシア語注釈がついている。教育漢字の中から小学校レベルの漢字を低学年から順番に学ぶ。 1：低学年 219 字 2：低学年 221 字 3：高学年 143 字 4：高学年 141 字 5：高学年 142 字 6：高学年 140 字
	漢字学習3 ／4／5／6（カリのみ）	★ ★	
b. 生活場面日本語	※生活場面 日本語「消費生活」	★	買い物場面での各種商店の利用、美容院、宅配便、修理等、サービス業の利用等、消費生活場面に関する基礎的な知識と会話を学ぶ。
	※生活場面 日本語「医療」	★	入院や通院など、医療機関利用に関する知識、診察などの場面で必要となる会話を学ぶ。 会話力が不十分でもテキストや用語・表現集を使ってコミュニケーションを図る方法も学ぶ。
	※生活場面 日本語「交通」	★	交通機関の利用（バス、電車、道開き、タクシー、小旅行など）に関する基礎的な知識と会話を学ぶ。
c. 技能別日	漢字ゆっくりA	★ ★	日本の漢字の読み書きをじっくり時間をかけて学びたい人のためのコース。A コースは、日本の小中学校で

<b>本語</b>	漢字ゆっく りB	★ ★	学習する約 800、B コースは 750 の漢字語彙の読み書きを学ぶ。読み書きが苦手な人や高齢者向け。
	漢字学習	★ ★ ★	日本の小中学校で学習する 5～6000 の漢字語彙の読み書きを学ぶ。職訓校の国語入試レベルに相当する。
	読解の基礎	★ ★ ★	職訓校の国語入試レベルの文章の読解問題を解く力を養成する。短文の読みから学習を始め、文の接続や修飾関係、構造把握の練習を通して徐々に長い文章の読解を学ぶ。
	※近隣交際	★ ★	近隣の人とよりスムーズに交流できるようになるための会話コース。近所づきあいや町内会、子どもの学校や保育園等の日常的な場面、話題をとりあげ、そこで必要な会話を身につけ日本の交際事情について学ぶ。
	自己表現作文(1)「日本語学習」A	★ ★ ★	「日本語学習」について、短文やまとまった文を読みながら語彙・表現を学び、自分に関することで簡単な作文を書く。また、書かれた作文を、周囲の日本人との交流の話題として利用できるようにすることを目指す。
	自己表現作文(1)「日本語学習」B	★ ★ ★	(1) A コース：日本語学習の方法／日本語学習上の困難／中国語と日本語の比較 (1) B コース：日本語学習歴／日本語学習の中で心に残った出来事／日本語学習の目標
	自己表現作文(2)「日本の生活」A *2010 年 9 月開講予定	★ ★ ★	(2) A コース：帰国の動機と経緯／帰国当初の生活／帰国直後の印象
<b>d. キャリアアップ日本語</b>	職業訓練校入校「中卒程度国語」 ／ 「高卒程度国語」	★ ★ ★	職訓校の中卒レベル、高卒レベル別の各科の入校試験対策コース。試験科目である「国語」（主に「漢字」の読み書きと長文読解の基礎）や「数学」（試験でよく取り上げられる中学～高校 1 年程度で学ぶ数式や定理の復習と文章題の読解練習）をレベル、学科に応じて学習する。本コースの受講を通して、試験問題の傾向を

	職業訓練校 入校「中卒 程度数学」 ／「高卒程 度数学」	★ ★	把握し、合格するのに必要な日本語力を身につけることができる。また、「面接」試験でのやりとりについても学習し、質問の傾向や応答のコツがわかるようになる。
	※就職対応	★ ★	(再)就職希望者のための準備コース。履歴書の書き方から、面接や職業安定所利用の際に必要な会話、電話問い合わせ等を学習する。本コースの受講を通して、各々の場面での典型的な質問に対して適切な受け答えの方法がわかり、就職面接に対する自信をつけることができる。
	運転免許学 科試験対応	★ ★ ★	普通免許取得希望者のための学科試験対策コース。中文訳の学科教本と日中対訳問題集を使って学科試験の知識を身につけ、試験問題の読解力を養う。
	ホームヘル パー受講準 備	★ ★ ★	ホームヘルパー養成講座受講に必要な専門用語、福祉の基礎知識、実習報告書の書き方などを身につける。
e. 自 学自習 の技術	中国語ピン イン学習	★	中国語のピンインの表記方法の基礎知識を学び、辞書引きやパソコンの入力に最低限に必要な力を身につける。

## [資料2]

### 【「遠隔学習課程」修了アンケート】 コース名( )

完走おめでとうございます！

センターでは、より充実した遠隔学習支援を行っていくために、今後も改善を図っていきたいと思っています。是非みなさんの忌憚のない意見をお聞かせください。回答は中国語と日本語、どちらでも結構です。記入後はお手数ですが、同封の返信用封筒にて返信をお願いいたします。

1. 遠隔学習課程を受講した理由は何ですか？複数回答可。
  - a. 近くに教室がないから
  - b. 近くに教室はあるが、自分には合っていないから
  - c. 忙しくて教室に通う時間がないから
  - d. 体調があまりよくないので通学できない
  - e. 自分一人で学習するのが好きだから
  - f. 教材が無料だから

- g. 中国語付きの教材だから
- h. 他の教室では勉強できないコースがあったから
- i. その他 ( )

2. 本コースを受講して得られたことは何ですか？複数回答可

- a. 語彙（漢字）量が増えた
- b. 今までわからなかった文法的なことがわかった
- c. 会話力が伸びた
- d. 読み書き力がついた
- e. 日本事情について知らなかったことがわかった
- f. 自学自習する習慣と学習の方法が身についた
- g. 学習することを通して、生活の楽しみ、ハリを得た
- h. その他 ( )

3. 本コースを受講した結果、資格（免許）等がとれた、就職ができた、その他何らかの具体的な成果があった方は以下にお書きください。（※今は結果が出ていなくても、今後、いいお知らせがあったら是非教えてください！）  
( )

4. 課題の添削について以下の項目について、当てはまると思う部分にそれぞれ○を付けてください。センターとしてよりよい学習支援をしていくためですので、忌憚のないご意見をお寄せください。

a. 添削の仕方、内容

よかった	まあまあよかった	改善の余地有り	改善が必要
○こうしたらもっとよくなると思われる点をお書きください。			
( )			

b. 添削の文字

読みやすい	まあまあ	ちょっと読みにくい部分有り	読みにくい
-------	------	---------------	-------

c. 送付状（手紙）のコメントの内容

よかった	まあまあよかった	改善の余地有り	改善が必要
○こうしたらもっとよくなると思われる点をお書きください。			
( )			

d. その他、添削やコメントについてお気づきのことがあればお書きください。

